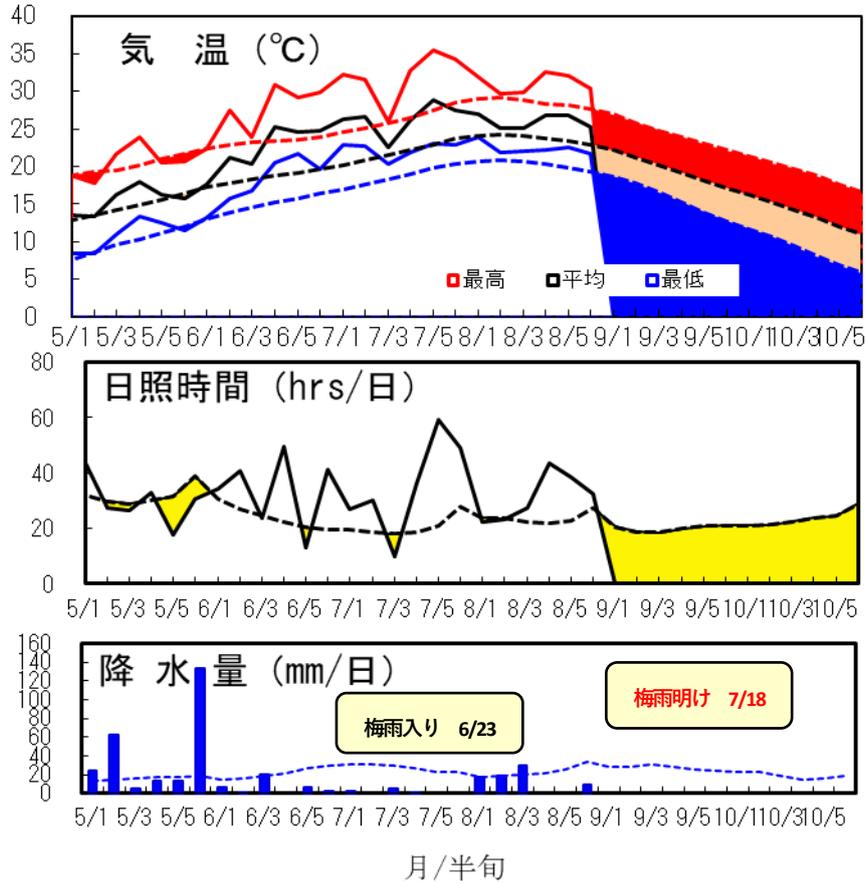


～ 大豆の開花期は 平年並みからやや早い ～

～吸実性カメムシ類の発生が多い傾向 9月の適期防除を！～

1 気象経過



◆8月28日発表 東北地方の1か月予報(8月30日～9月29日までの天候見通し)【気象庁ホームページより】

- ・ 天気は、東北太平洋側では天気は数日の周期で変わる。平年に比べ曇りや雨の日が少ない。向こう1か月は、気温の高い状態が続く。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込み。期間のはじめは降水量の少ない状態が続く所がある。
- ・ 向こう1か月の気温は、東北太平洋側では高い確率 80%，平年並み若しくは低い確率 10%。
- ・ 降水量は、東北太平洋側では多い確率 20%，平年並み若しくは少ない確率 40%。
- ・ 日照時間は、多い確率 50%，平年並みの確率 30%，少ない確率 20%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 08/30～09/29	10 (低い) 10 (平年並) 80 (高い)
		1週目 08/30～09/05	10 (低い) 10 (平年並) 80 (高い)
		2週目 09/06～09/12	10 (低い) 20 (平年並) 70 (高い)
		3～4週目 09/13～09/26	10 (低い) 30 (平年並) 60 (高い)
降水量	東北日本海側	向こう1か月 08/30～09/29	30 (低い) 30 (平年並) 40 (高い)
	東北太平洋側	向こう1か月 08/30～09/29	40 (低い) 40 (平年並) 20 (高い)
日照時間	東北地方	向こう1か月 08/30～09/29	20 (低い) 30 (平年並) 50 (高い)

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

2 生育状況

【宮城県古川農業試験場 大豆作況試験 8月8日調査結果】

① 5月25日播種

- ・ **タンレイの開花は、平年より4日早く、前年より5日早い7月18日であった。** 平年と比較して主茎長は短く、主茎節数、総節数はやや少なく、分枝数は少なかった。
- ・ **ミヤギシロメの開花は、平年より4日早い7月25日であった。** 平年と比較して主茎長は短く、主茎節数は平年並みで、分枝数は少なく、総節数はやや少なかった。

② 6月15日播種（ミヤギシロメ）

- ・ **開花は前年より4日早い7月31日であった。** 主茎長は前年より短く、主茎節数はやや多く、分枝数は少なく、総節数はやや少なかった。

③ 7月5日播種（タンレイ）

- ・ **開花の平年値は8月12日だが、本年の開花はまだ確認できない。** 主茎長は平年並みで、主茎節数・総節数はやや多く、分枝数は多かった。

播種期	品種名	開花期（月/日）			主茎長(cm)		
		本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差
5/25 播種	タンレイ	7/18	5日早い	4日早い	59	-33	-23
	ミヤギシロメ	7/25	4日早い	4日早い	90	-43	-27
6/15播種	ミヤギシロメ	7/31	4日早い	-	80	-8	-
7/5播種	タンレイ	-	-	-	44	+4	-1

播種期	品種名	主茎節数（節/本）			分枝数（本/本）			総節数（節/本）		
		本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差
5/25 播種	タンレイ	15.0	-2.3	-1.5	3.3	+0.5	-0.9	35	-0.7	-6.3
	ミヤギシロメ	17.8	-0.4	-0.1	2.8	-1.5	-1.3	41	-4	-6
6/15播種	ミヤギシロメ	16.3	+1.4	-	2.5	-1.0	-	30	-3	-
7/5播種	タンレイ	10.2	+1.2	+0.7	0.7	+0.7	+0.1	13	+3	+1

注1) 平年差は過去5か年（R2～R6）の平均値との差

注2) 栽植密度は、5/25及び6/15播種が条間75cm×株間20cm、7/5播種が条間75cm×株間10cm（1株2粒播種）

注3) 6/15播種のミヤギシロメはR3年から調査を開始したので、平年値は無い。

◆作況試験ほにおける開花は、晩播のタンレイを除いて平年より早く、生育ステージはやや進んでいると推測される。

◆しかしながら、6月以降、降水量が平年より少ない影響で、大豆の生育全体が抑えられている傾向にある。そのため、播種時期の早いものほど、主茎長や分枝数・総節数が少ない傾向にあるものと思われる。

3 今後の管理

1 干害対策

- ・ 本年は7月の降水量が著しく少なかった。主要アメダス地点の7月における積算降水量は、平年比で3～16%にとどまっていた。そのため、播種の遅かったほ場では土壌の乾燥による出芽不良を起こしているところが見られる。
- ・ 開花期から子実肥大期にかけては、降水量が少ないと花数が減少し落花・落莢が増加する。晴天が10日以上続くような場合には「畝間灌水」を行って水分を補給する。

2 病害虫の発生予報と対策（宮城県病害虫防除所ホームページより）

◆病害虫防除所が8月26日に発表した「発生予察情報 第8号」によれば、主要病害虫の発生予報と対策は、以下のとおりである。

（1）紫斑病

- ・ 発生量は、「平年並」と予報されている。

◎対策

- ・ 大豆の生育ステージをよく観察し、開花期の20～40日後に1～2回薬剤防除を実施する。
- ・ QoI 剤に対する感受性低下菌の発生が確認されているので、薬剤の効力低下が懸念される場合は、他系統の薬剤使用を検討する。

（2）べと病

- ・ 発生量は、「平年並み」と予報されている。

◎対策：発生が著しい場合は、単独防除する。

（3）アブラムシ類（ジャガイモヒゲナガアブラムシ）

- ・ 発生量は、「少」と予報されている。

◎対策：例年、8月下旬～9月上旬に密度がピークに達するので、多発した場合は薬剤防除を実施する。

（4）吸実性カメムシ類

- ・ 発生量は、「多」と予報されている。

◎対策：開花期以降に発生がみられるほ場では、着莢期から子実肥大中期を重点に2回以上薬剤を散布する。

（5）フタスジヒメハムシ

- ・ 発生量は、「平年並」と予報されている。

◎対策：第2世代成虫の発生盛期（平年：8月下旬～9月上旬）に薬剤防除を実施する。

（6）マメシンクイガ

- ・ 発生量は、「平年並み」と予報されている。

◎発蛾最盛期とふ化盛期（8月下旬とその7～10日後の9月上旬）にかけて1～2回薬剤防除を実施する。

- 大豆を4年以上連作すると、特に被害が大きくなることが知られている。連作ほ場や前年の発生が多かったほ場では、より効果の高い薬剤を選定する。

◆主要病害虫の具体的な防除方法については、前号（大豆作情報 第3号）を参照する。

(7) その他タバコガ類 (オオタバコガ, ツメクサガ)

- ・ 中齢幼虫以上になると葉及び莢を食害し、被害が大きくなるので、早期発見・早期防除に努め、若齢幼虫期に薬剤防除を実施する。
- ・ 突発的に集中発生することもあるため、ほ場を注意して見回る。

●大豆病害虫の同時防除は、下図を参考にする。

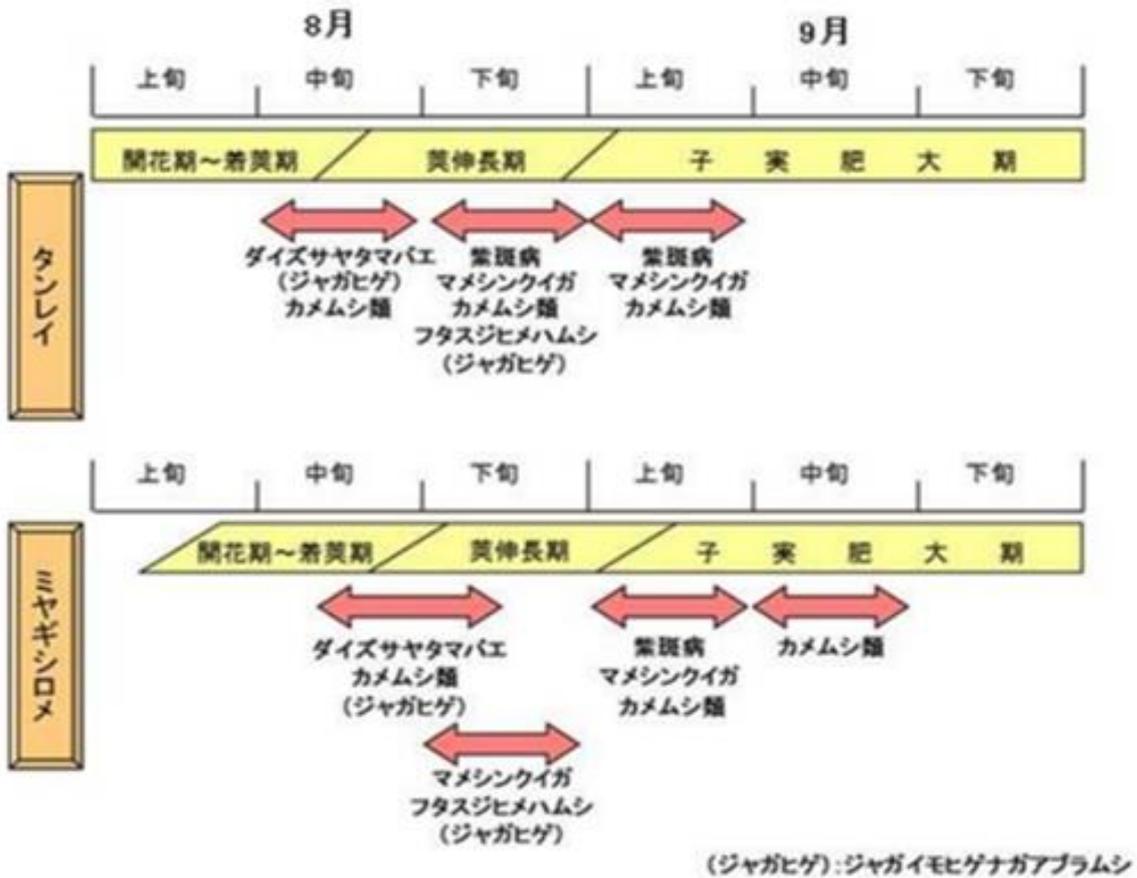


図1 大豆病害虫の同時防除体系図

※ジャガイモヒゲナガアブラムシは密度が高い場合に単独防除を実施する。
 ※マメシクイガ, フタスジヒメハムシは品種が異なっても発生時期は変わらない。